

FABRIC TOKYOがめざすのは オープンなものづくり。 ものづくりの背景や、つくるひと、生産工程 そのすべてを見せて、 納得感のある服をつくる。

自分の体のサイズを採寸してクラウド上に登録する。すると、自分の体にぴったりのビジネススーツやシャツを、いつでもネットでオーダーできる。FABRIC TOKYOは、ITとファッションを組み合わせて新しいカスタムオーダーを提案するスーツブランド。こだわりの生地は200種以上から、パターンは40型から選べる便利さと誠実なものづくりで、ミレニアル世代を中心に支持を集めています。創業者の森雄一郎さんは、香川大学工学部の卒業生。いま数多くのメディアに取り上げられている話題の人物です。物心ついた時からITは身近だったという森さん。中学生の時には自分でPCを組み立てたり、地元岡山のラーメン店を紹介する自作サイトが話題になったりと「自分が作ったモノを周りが使ってくれるのが嬉しかった」という子ども時代を過ごします。大学進学にあたり、情報系に行くか、建築系に行くかを考えて、建築系の安全システム工学科に進学。「情報の授業も真剣に受け、授業のタイピング大会では1位を取ったこと」と明かします。バスケットボールサークル「アブレックス」に所属し、忙しい大学生活を送っていました。

高校生の時からファッション好きでもあった森さんは、在学中の2006年、国内外のファッションを紹介するブログメディアを立ち上げました。パリコレに乗り込み、カーン・ラガーフェルドなどの有名デザイナーに突撃インタビューするなどの独自の記事があっという間に人気になり、スポンサーも獲得。「起業家 森雄一郎」の原点です。

2009年3月に大学を卒業した後は東京のファッションイベントプロデュース企業を経

て、不動産ベンチャーでセールス・マーケティングに従事。世界中のファッションが集まる東京で、自分のサイズに合うスーツがなかなか見つからないというジレンマに直面します。「そんな時、友達にオーダースーツをすすめられて試したところ、自分にぴったりで、これこそ自分が一番欲しいサービス、自分が一番のユーザーになれると思ったことが、FABRIC TOKYOのスタートでした」。森さんは「FABRIC TOKYOは洋服を売るのではなく、洋服を通じてはたらく楽しさを提供する会社です。体にフィットするだけではなく、ライフスタイルにフィットする1着を届けています。」と話します。FABRIC TOKYOのスーツは、しわになりにくい素材を使ったり、着ていることを忘れるような着心地のものだったり、働く人のさまざまなシーンに寄り添うもの。体にほどよくフィットした着心地のいいスーツは、服よりも着る人自身の個性が際立ちます。

自分の好きなことを追求し、ビジネスを通して社会に新しい価値を提供している森さんは、いま、高校生や大学生に「自分の小さい頃の夢や大好きなことは、削ぎ落とさなくてもいい。自分の個性や得意なことを

生かすような生活をした方がいい」と語りかけます。「大学はいろんな場所から人が



集まり、いろんな学部、いろんな先生がいる場所です。人と出会って、興味があるものに貪欲に取り組んだほうが楽しい」。森さん自身、大学での人との出会いで自分の世界が大きく広がりました。「語学留学に行った友達の話聞いて、そんなのもアリなんだ!」と、学生時代に世界10か国以上を訪問。自分の見る風景が変わり、人の多様性に気づいたことが、FABRIC TOKYOの「もっと多様性のあるスーツを提案したい」「一人ひとりの個性を大切にしたい」という思いにつながったのだそうです。「心をオープンにして自分に問いかける。そうして見えてきたものに歯止めを効かせず、とにかくとことんやってみる」。そう語る森さんの言葉には、自由に自分らしく生きる強さと、爽快感が感じられました。

KAGAWA UNIVERSITY'S ALUMNI

心をオープンにして自分に問いかける。 自分の「好き」を、削ぎ落さない生き方。

株式会社FABRIC TOKYO 代表取締役社長 森雄一郎氏

<https://fabric-tokyo.com/>